

当院における診療放射線技師の労働スタイルと働く環境

社会医療法人将道会 総合南東北病院放射線科 太田 運良

病院における我々の立場は特殊であり、チーム医療を提唱している概念図の中にほぼほぼ入っている例がない（筆者は入っている図を見たことがない）、そんな我々診療放射線技師が病院チームにどうやって貢献できるか？を考えてみると、ただ撮影業務を行うだけ、患者さんやスタッフに優しく接したり、医師や看護師のお手伝い的な事をするのではなく、医用画像を通じて診療サイドに有益な情報を提供することが最も貢献出来る事だと思います。

例えば救急患者等を撮影した際に、異常所見や疑問に思う所見を見つけた場合は、医師・看護師が見ればわかるであろうとしてそのままにせず、些細な事でも必ず一言連絡し、診療サイドに重要度を認識させ、次のアクションを迅速に行えるように促す事が、診療放射線技師がチームとして貢献出来る事なのだと思います。

労働者のストレスをできるだけ緩和し、どうやって効率よく労働力を上げるかが、人口減少、労働者減少に急速に進む社会の重要事項になっており、改善が急がれています。

その為、医療現場においてもAIが数多く導入され、少ない人手でも高いパフォーマンスで運用できるようなシステムになっていくと思います。その反面、人間を相手にした医療である以上、大事な部分はやはり人の温かさだったり、対話によって心を通じ合わせる事だと思います。

これからの診療放射線技師は、先進の技術の習得だけでなく、患者さん、同僚、病院スタッフ、家族など、人間に対して優しくできる職業人になるように、我々指導をする立場の人間から変わっていく必要があると思います。